

「更年期障害とプレゼンティーズムに関する企業疫学調査」調査参加者の方へ

産業医科大学では、以下の研究を実施しております。この研究は、これから実施する調査で得られる情報に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（西暦 2022 年 3 月 23 日制定 西暦 2023 年 6 月 30 日施行）」により、対象となる皆様のお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。参加したくない方やアンケートの回答途中で同意を撤回したくなった場合には画面を閉じてください。何ら不利益を被ることはありません。本研究に関するお問い合わせは、以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

更年期障害とプレゼンティーズムに関する企業疫学調査(U 調査) (厚生労働科学研究費 22FB1001)

2. 研究期間

西暦 2023 年 7 月 10 日から西暦 2029 年 3 月 31 日まで

3. 研究機関

産業医科大学

4. 研究責任者

産業医科大学 環境疫学 教授 藤野 善久

5. 研究の目的と意義

女性は閉経の前後において、性ホルモンの急激な変化により、ほてりやのぼせ、寝汗、不安感、抑うつ、睡眠障害、めまい、関節痛、易疲労感など様々な更年期症状を経験します。このような更年期症状は働いている女性にとって就労にも影響し、仕事の継続が困難となるケースも存在します。しかし日本では、更年期における内分泌環境の変化や精神心理的な変化が、就労に与える影響について調べた研究は少なく、更年期症状と就労との関係についての知見は多くありません。また 20 歳代から発症する若年性更年期症状も報告されています。

さらに最近中高年男性において性ホルモンがストレスなどにより減少し、女性の更年期症状に似た症状を呈する LOH 症候群(late onset hypogonadism)も注目さ

れていて、男性においても更年期症状はQOLを大きく損なう可能性があると考えられています

本研究では、就労者における更年期症状の有訴割合、更年期症状のプレゼンテーションや就労への影響、関連する就労要因（ストレス、交代勤務、労働時間など）との関連を検討します。更年期症状が就労や日常生活に与える影響等を明らかにし、性差に着目した両立支援の在り方の検討に資することが期待されます。

6. 研究の方法

本研究は、UBE 株式会社の社員様のうち、調査の参加に同意された参加者を対象に、アンケートに回答して頂きます。アンケートは社外のインターネット上のシステムを用います。

7. 個人情報の取り扱い

本研究では個人を特定することにつながる個人情報は取得しません。データは研究責任者が管理し、情報の漏洩を防止します。この研究で得られたデータは、少なくとも研究の終了報告から5年が経過した日または研究成果公表から3年が経過した日のいずれか遅い期間まで保管します。廃棄する際には研究責任者の管理の下、電子媒体のものは復元不可能となるよう初期化を行い、情報が外部に漏れないように対処します。なお本研究では個人が同定できないため、同意が撤回された場合でも、データの破棄は行いません。

8. 得られた情報の利用目的の範囲

- ・学術発表など研究目的：あり
- ・第三者提供：あり（論文投稿雑誌の要求がある際に限る）
- ・海外への提供：あり（論文投稿雑誌の要求がある際に限る）
- ・公的データベース等への登録：なし

9. 問い合わせ先

産業医科大学 環境疫学 教授 藤野善久 (093-691-7401)

E-mail: zenq@med.uoeh-u.ac.jp

10. その他

本研究に参加することによる直接的な利益はありません。また経済的負担や謝礼もありません。本研究は、厚生労働省（厚生労働科学研究費補助金）、本学運営費（講座研究費）、奨学寄附金で行われます。また、本研究の利益相反については、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公平性を保ちます。

アンケートの回答にかかる時間はおよそ 15 分です。